

# 民俗資料館だより

March 31<sup>st</sup>, 2014

KAMO CITY MUSEUM OF HISTORY NEWS No. 21

加茂市民俗資料館  
館報 第21号

平成26年3月31日発行

編集・発行

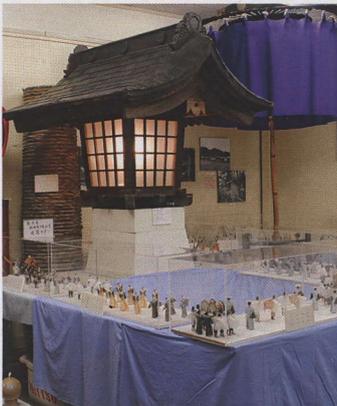
加茂市民俗資料館

## 市民の皆様 加茂の魅力を 探ってご覧になりませんか

加茂市教育長 殖栗敏夫

北越の小京都 加茂。その長い歴史の中に培われた文化と人々の暮らしを調査発掘し、伝え続けた加茂市民俗資料館が40周年を迎えようとしています。

当館は、『となりのトトロ』の映画にでてくるようなかわいらしい建物です。大勢の市民の皆様からおいでいただきたく、ご案内申し上げます。



< 灯籠と加茂のご神幸 >



< 縄文式土器 >



< 伝統の箏箏 >

これらのことを始め、加茂市の素晴らしさを再発見できる民俗資料館に、どうぞ、おいでください。

展示されている『加茂のご神幸』からは、人々が豊かな実りを念じ、子どもたちの健やかな成長を願う祭列の全貌が見事に再現されています。平安時代に始まる加茂と京都の深いつながりも見えてきます。

また、旧石器、縄文、弥生、古墳の各時代の出土品からは、日本列島を湿潤なモンスーン温暖気候がおい、実り多い恵みをもたらす森林が発達した2万年前の頃から、加茂の地に人々が生活していたことがわかります。

さらに、日本一を誇る箏箏生産のルーツを探ることもできます。今なお輝く職人さん達の腕の良さにつながります。



< 加茂市民俗資料館の外観 >

## 創立40年にあたって

加茂市民俗資料館長

金子正文

民俗資料館は、郷土への愛着心の高揚と先人が培ってきた歴史や文化の資料などを後世に伝えることを目的に、昭和49年4月1日に創立され、同年8月、旧下条中学校の校舎を転用し開館いたしました。その後、平成6年11月に加茂山公園内の現在地である旧図書館に移転開館し、今年で創立40周年を迎えるに至っております。

この間、多くの皆様から民具、考古資料、歴史史料等の寄贈・寄託をいただき、収蔵品数は約20,000点を数え、そのうち市の指定文化財を含む1,200点を常時展示しております。水源池・千川遺跡から出土した縄文土器・古墳時代の土器等や江戸時代から明治初期に製作・使用された漢方薬製薬器具、灌漑用具、手加工時代の建具工具など、いずれも現代の日常生活では見る機会のほとんどない貴重な資料ばかりとなっております。

イギリスの歴史学者、アーノルド・J・トインビー (Arnold Joseph Toynbee, 1889-1975) は、「歴史を忘れた民族は滅びる」と言い、また、『論語』には「子曰く、故きを温ねて(温めて)新しきを知れば、以て師と為すべし」とあります。先人の培ってきた歴史や文化の資料という地域の貴重な至宝を、次代を担う方々に伝えるためにも、皆様方におかれましては、今後ともお気軽に当資料館をご利用くださいますようお願い申し上げます。

# 加茂町の市川家で決まった

## 長岡藩奪還作戦

加茂市文化財調査審議会委員長

溝口 敏磨

昨25年のNHK大河ドラマでは、会津藩の戊辰戦争にスポットがあたり、同藩始め奥羽越列藩の越後での戦いが、改めて注目された。加茂でも、長岡城落城直後に河井が一時滞陣し、長岡奪還作戦を決めたことが知られている。この小稿では、市川家での列藩同盟軍の軍議を中心に、当時の加茂の実相などに関説してみよう。

### 同盟軍の加茂集結

加茂町と周辺村々は幕府領で桑名藩の預かり支配地であったが、同藩は藩主松平定敬が將軍慶喜の弟で京都所司代を務めたことから、鳥羽伏見戦争では旧幕府方として戦った。藩論はまもなく新政府への恭順に転じ、家督を譲った定敬は同藩の柏崎役所に隠棲。だが、徹底抗戦を主張する同藩主戦派が柏崎に集まってきたために、定敬は柏崎に留まることができなくなり、閏四月十七日に加茂町庄屋の家筋で大地主の市川家に移ってきた。

閏四月末の戦闘で、桑名藩の柏崎役所が新政府軍に攻略されるなどして、加茂が安泰の地ではなくなったと判断したからであろう、定敬は五月一日の明け方、ひそかに加茂を抜け出していった。市川家には桑名藩の下役四、五人が残ったが、戦闘が熾烈となった五月中旬、米沢藩がやってきて、市川家が同藩の本陣に当てられた。

五月十九日に長岡城が陥落すると、長岡とその周辺に布陣していた奥羽列藩同盟の諸藩兵が加茂に退いてきた。加茂は幕府領だったり桑名藩の預かり支配地だったりしたことだから、町役人や有力者からの協力も期待できるとして選ばれたものと思われる。同二十一日、新津から加茂にやってきた米沢藩参謀の甘粕継成は、「長岡落城に逢て後路を絶たれたる者七百余、今日暫く山道を経て逃げ帰りしとて宿中に充満し、紛雑言うべからず」と書き留めている。『新潟県史』資料編13以下『県史』と略記。p. 11) 加茂の有力町人明田川吉次も5月末頃に次のように報告している。

加茂町から月岡にかけて、諸家の人数が充満し米沢四千人・長岡千五百人・村上五百人、会津勢五、六千人である。加茂町では裏通りの家までも残らず宿を務めるよう命じられ、そのため物価は沸騰し、玉子一つが七十五文もする。町人は山々に小屋をたてて荷物を避難させ、女・子どもは残らず近在へ逃がした(『小泉蒼軒目録』下巻 以下『日録』と略記。p. 516)。

加茂一帯は騒然とした状況となり、住民は恐怖と緊張の日々だったであろう。米沢藩の甘粕継成は、二十一・二十二の両日に加茂を見て回り、下記のように戦略をたてた。

一、加茂宿は陸と船の交通が発達していて便利だが、道が四通八達していて守るには不安。

敵兵が忍び入って火を放とうものなら、駐屯している諸藩兵は混乱し甚だ危険だ。そこで、陣ヶ峰という山へ弾薬金銭機械等に移す。

一、加茂新田に一小隊を配置し、桑名藩兵と協力して信濃川を往来する船を監視する。黒水からの敵への備えとして狭口に二小队、鹿峠にも一小隊を置き、会津・村松藩と合力して見附・栃尾への備えとする。加茂明神と矢立の山地や長福寺の間道にも兵を配置して、敵への備えとする(『県史』p. 11)。

### 加茂軍議と河井継之助

この加茂で列藩同盟軍の長岡奪還作戦が決まった。会議に参加した甘粕の日記によればつぎのようであった(『県史』p. 11~12)

二十二日、会津藩の家老一ノ瀬要人からの要請を受け、会津・米沢・長岡・桑名・村松・上ノ山各藩の代表が集まった。米沢藩が越後出兵同盟軍の総大将を頼まれたが受けようとしなかった。しかし、同藩の本陣である市川家が加茂駐屯諸藩の軍議所となったようである。なお、河井が宿したのは皆川家だった(今泉鐸次郎『河井継之助伝』p. 424)が、会津藩一ノ瀬の宿所は不詳である。

下越方面に進軍してくる維新政府軍にいかに対抗するか、各藩とも策を打ち出せないなか、河井継之

助が「勇断進撃して見附を取り長岡を復するの説を唱え、傍らに人なき如し」であったという。河井はまた、長岡落城のさいの村松藩に二心ありと咎め立て（「言甚切也」）、ために同藩の田中勘解由が二十三日の会議の場で自刃を図り、近藤貢は帰藩途中の黒水宿で自刃、という事態となった。

翌二十三日も軍議所とされた市川家に諸藩代表が集まった。改めて米沢藩に総大将役を要請したが、前日同様、引き受けようとはしなかった。朝敵に名指しされたのは会津・庄内藩で、自分たちはその両藩の謝罪嘆願を新政府に斡旋することを本旨とした出兵なのだ、という本音が見えるようである。この日の軍議、列藩同盟軍を三軍に分け、米沢・会津兵が大面から見附へ、会津・桑名兵が三条から信濃川を渡り与板へ、長岡・村松兵が下田から栃尾・見附に向かうという作戦が決まった。前掲『河井継之助伝』は、河井が進軍手配をしたとしているが、甘粕の日記では自身が建議したと書いている。長岡藩の担当が長岡攻撃ルートの側面にあることや、敗北・落城直後の長岡藩が単独で全体の指揮をとれたことも考えがたい。河井ら長岡藩兵にとっては長岡奪還は意義があったとしても、他の諸藩にとっては、長岡奪還の先にどれだけの戦略が立っているわけではない。作戦決定には種々の思惑が入り交じったことが考えられる。甘粕日記の河井像は苦々しげである。

河井の評価は立場によって各別である。新発田藩領の名主で地理学者として知られる小泉蒼軒が書き留めた記録には、“長岡藩で近来立身した河井は徳川びいきで、才子だが筋が良くなく、そのうちに引き下げられるとの噂が諸所にある”（3月）、“長岡藩は藩内に二派あるが、河井の弁舌にて殊のほか穏やかだ”、“藩論を自分に都合よく導くために、会津藩から長岡藩に「強談」を申し入れてもらった”、“会津藩との間で、穏やかに済んだら10万石の土地を受け取る「深約」ができています”（4月中旬）、など、河井に対する否定的な情報も書き留められている（『目録』。p. 453～454）。有名な「慈眼寺会談」では、河井は藩主の歎願書を差し出す役目だったが、応対した土佐藩の岩村精一郎は「河井は固より嘆願に来たりし者なれども、意気傲然、論詰の語を帯び、気炎揚り居れり」と回顧しており、人並み外れた個性の持ち主であったことは確かなようだ。

## 館外活動

### ① 古文書講座

開催時間 午後7時～8時40分

会場 加茂市公民館第1研修室

#### 第1回

平成25年8月27日（火）

講師 関 正平 先生

（加茂市文化財調査審議会委員）

テーマ

「蘭方医 森田千庵の書簡から」

一般参加者 39名

講座内容

森田千庵は、京都の蘭学医藤林普山に入門した。普山の下での遊学中に父甫山に宛てた書簡のうち2点を解読した。



関 正平 先生

#### 第2回

平成25年9月3日（火）

講師 長谷川 昭一 先生

（加茂市文化財調査審議会副委員長）

テーマ

「鶴巻鶴一の坪谷善四郎宛の書簡を読む」

一般参加者 42名

講座内容

坪谷善四郎と七谷の地主鶴巻家との関わりは、鶴巻亀太郎の代から始まり、亀太郎の長男である鶴一との親交も深かった。善四郎が鶴巻家に宛てた書簡は、加茂市図書館に多数保存されているが、今回は、鶴巻鶴一が坪谷善四郎に宛てた書簡のうち3点を解読した。

### 第3回

平成25年9月10日(火)  
講師 溝口 敏磨 先生  
(加茂市文化財調査審議会委員長)  
テーマ  
「長瀬神社二五会相撲」  
一般参加者 39名

#### 講座内容

大正6年に長瀬神社社掌である小池堅磐が作成した「長瀬神社嘉例相撲奉納記」を解説した。前段で、神前相撲が、日本古来の伝統であり、体育への関心が高まっている時代背景もあって実施に移されたと述べている。大正2年、上条地区で、25歳になった青年たちが集まり、25歳を以って社会の中堅となる年齢を自覚し、「二五会」を組織した。その記念行事として、長瀬神社の秋季祭礼で会員同士の企画による奉納相撲を行ったのである。

### 第4回

平成25年9月17日(火)  
講師 佐藤 賢次 先生  
(加茂市文化財調査審議会委員)  
テーマ  
「市川家から池端代官となった俊次郎」  
一般参加者 35名

#### 講座内容

加茂の市川家の家系図を紹介。慶長3年より新発田藩領であった下条村は、寛永5年に検地され、3ヶ村に分村した。そのひとつである下条中村は、旗本溝口内記宣俊の所領となり、新発田の池端に陣屋が置かれた。5代目市川正兵衛は、加茂町の庄屋の他、鶴田新田や下条東村の庄屋も兼帯していた。6代目正太郎の願い出により、子の俊次郎は新発田藩池之端陣屋の代官役となった。上記に関連する市川家文書を解説した。

### 第5回

平成25年9月24日(火)  
講師 丸山 朝雄 先生  
(加茂市文化財調査審議会委員)  
テーマ  
「良寛・有顔・自笑」  
一般参加者 37名

#### 講座内容

新飯田の田面庵住職であった有顔を中心に話が展開した。有顔と親交のあった良寛の詩歌「看花到田面庵」を鑑賞したり、有顔の遺墨等を鑑賞、解説したりした。

## ② 歴史講演会

日時 平成25年11月16日(土)  
午後2時～午後4時  
会場 加茂市公民館 第1研修室  
講師 溝口 敏磨 先生  
(加茂市文化財調査審議会委員長)  
テーマ 「戊辰越後口戦争」  
— 列藩同盟側の戦略 —  
一般参加者 62名

#### 講演内容

##### 1 戊辰戦争概略

越後における戊辰戦争は、関係する諸藩の思惑が交錯し、他に類を見ない激戦を繰り広げた。その内因は、「①新潟港が開港を間近にしていたこと。②会津・桑名藩の所領の多さ」であった。

##### 2 奥羽列藩同盟

仙台藩は、会津救済を奥羽諸藩と協議の上、総督に嘆願書を提出したが、却下されたことにより、諸藩が結束して奥羽列藩同盟が成立した。新政府に敵対しない立場をとっていたが、会津藩、庄内藩の参加で、奥羽越列藩の攻守同盟に変質した。裏では武器商人スネルが新潟を拠点にして奥羽越諸藩へ武器弾薬の売り込みを行い、同盟側に大きな影響を与えた。

##### 3 嫌われた会津藩

越後に出兵してきた会津軍や随伴した旧幕府脱走兵が乱暴、狼藉を繰り返すので、米沢藩に抑えて欲しいという依頼がある等、会津藩への反感が強まった。会津藩を嫌うあまり越後の民心が敵軍に移ること警戒した米沢藩は、民望を自藩に繋ぎ止めることを決意した。草莽有志も米沢詣でを行うなど、米沢藩への期待が高まり、会津藩からの分離を求める建言も出されるに至った。



溝口 敏磨 先生

#### 4 民衆の支持を

[資料1] 米沢藩士 堀尾保助の書簡

「新発田藩領の農民蜂起について上司への情報書簡」

百姓一揆と雖も数万の蜂起であるから侮ることはできない。武力で収めるより民衆の心痛を察し、民心の鎮撫に尽くすべきではないかと建言した。

[資料2] 「新政府軍の金札配布と年貢半減令」

新政府は、民心の安定を目的に、越後に年貢半減令を出したり、金札を貸し出したりした。

[資料3] 「米沢藩の弥彦神社祈祷」

米沢藩は、越後人の信仰が厚い弥彦大明神を御祈祷し、民心を得て味方に引き付けるようにした。

### ③ 特別歴史講演会

日時 平成26年3月1日(土)

午後2時～4時

会場 加茂文化会館小ホール

講師 岩野 笙子 先生

(加茂市史編集委員)

テーマ 「越後の寒念仏信仰」

—加茂市七谷地区の寒倉講を中心にして—

一般参加者 82名

#### 講演内容

##### I 新潟県における寒念仏信仰

寒念仏とは、寒中に鉦を打ち、念仏を唱えて村々を回り、水垢離などをして祈願成就を願う信仰と考えている。大寒の頃は特別に寒さが厳しいため、人々は、この時期に修行をして、霊的能力を高めようとした。新潟県では、盆念仏(夏念仏)に比べ、寒念仏信仰が圧倒的に多いことが、供養塔の建立数などからもわかる。新潟県における特徴ある寒念仏信仰として、上越地域に「寒大神」、中越地域に「寒精進」、下越地域に「寒倉講」などの存在が確認される。

##### II 七谷地区下黒水の「寒倉講」

寒念仏信仰のほとんどが消滅している現在、平成22年まで信仰を昔のままに継承していたのが加茂市七谷地区下黒水の「寒倉講」である。この地区の信仰の実際をひもとき、寒念仏信仰について考察する。

##### (1) 寒行と祭礼儀礼

下黒水の「寒倉講」では、昭和33年まで寒行が行われてきた。寒行の期間は12月18日から24日までの1週間で、24日が満願である。講中で寒行の希望者がある時、または、病人のいる家から祈願の依頼があった時などに実

施した。寒行の期間は、水垢離を毎日とってムラ念仏に回ったが、特に、18日(初日)、21日(中日)24日(願渡し)には、加茂川に出て水垢離をとるなど厳しい修行をした。水垢離には、ユウテ(晒しの手ぬぐい)を必ず使用した。ユウテには寒倉様がのりうつるとして大切に扱った。

寒行を行わない年は、12月24日に講中が宿に集まり祭礼をした。祭礼当日は、9時頃宿に集まり祭壇を作り供物を供える。水垢離をとり、祭壇に寒倉大権現の掛け軸をかけ、全員白装束に着替えて、鉦を打ち、長念仏を唱えた。念仏終了後、宿に集まった信者に寒倉講のお札とオミコク(供え物)を配布した。いただいたお札は家の玄関に貼り除災とした。最終日にムラの出入り口の境に寒倉大権現のお札をさげて疫病など災いがムラに入らないようにミチキリをした。(平成22年をもって寒倉講は休止している。)



岩野 笙子 先生

##### (2) 地域社会とのかかわり

葬式になると喪家の主人が寒倉講の親方に依頼し、念仏をあげてもらう。出棺前夜(通夜)にムラ人によるムラ念仏が終了しムラ人が帰ると、寒倉講中だけが残り、寒倉講の長念仏を唱える。寒倉講の念仏は極楽往生できるありがたい念仏であるとされていた。しかし、自宅で葬式をしなくなった現在は、念仏を唱える時間的余裕がなくなり、念仏を唱えることが少なくなってしまった。

かつて寒行をしていた時代には、依頼があれば駆けつけ、病氣平癒の祈祷を施し、多くの病人が救われたという例もみられた。

##### おわりに

寒倉講は強い団結の下で、親方から次の親方へと口伝という形で儀礼を継承するという秘匿性が強かった。その中で、平成15年、平成18年に祭礼儀礼を公開し、写真撮影を認めたことは意義深いことであった。水垢離などの厳しい修行を繰り返し、オカミュウテを依代として寒倉大権現と一体になり、念仏を唱えて除災する行人の姿に、寒念仏信仰の根源をみることができる。

## 平成25年度の歩み

### 1 入館者数

平成25年4月～平成26年3月

	市内	市外	計
大人	225	642	867
小中学生	305	132	437
計	530	774	1,304

### 2 資料収集の状況

本年度は5名の方から件10点のご寄贈を賜り、お礼申し上げ、紹介させていただきます。

〈寄贈品名〉

後期旧石器時代彫器 クロカン用スキーブーツ  
オープンリールテープレコーダー かつお節削り器

たばこ 煙草入れ 煙管 根付け 鍬の刃 神棚 御札

〈寄贈者ご芳名〉

辻川敏美様 松本和子様 石附勝弥様 金子結城様  
横尾二二秋様

### 3 レファレンス・サービス及びアンケート調査

(民俗資料館への問合せ)

#### ① レファレンス・サービス(62件)

- ・水源池遺跡の史料が見たい。
- ・江戸、明治時代の箆筒を撮影させてほしい。
- ・加茂市では十五夜祭りを行っているか。
- ・石仏の場所を教えてください。
- ・加茂市の道路元標が見たい。
- ・加茂縞や桐箆筒について知りたい。
- ・加茂紙についての資料がほしい。
- ・居之隊、松田秀次郎、高札について資料がほしい。
- ・資料館の商家コーナーにあるお金をいれておく箱の名前を教えてください。
- ・明治43年頃、個人名で花火を打ち上げていたようであるが、その目的や理由を教えてください。

#### ② 来館者の声

- ・青海神社と加茂山公園との関係を説明し、接点を入れてほしい。
- ・自分たちの習ったものがあってびっくりした。
- ・加茂でも土器が発掘され、実物もあったので良かった。
- ・歴史の勉強になった。またゆっくり見たい。
- ・休館日にも拘わらず見せていただき感謝している。街もゆっくり散策していきたい。
- ・加茂市全体の昔のジオラマとかあれば見てみたいと思う。
- ・カモシカの骨のような骨をもっと見てみたい。

- ・昭和初期等の日用品を見て懐かしく思い、大変良かった。また家内を連れてきたい。
- ・民俗資料館にある視聴覚資料を教えてください。
- ・お祭りの行列が上手く出来ていた。
- ・昔の農家の様子が良く分かった。
- ・加茂にも凧があったことが分かった。
- ・天狗が大きくて良かった。圧倒された。
- ・木製だるま自転車初めて生で見た。
- ・両親が加茂出身なので懐かしく思った。織物や紙も作っていたことも知ることができた。
- ・和紙が水引に利用されていたことは知らなかった。
- ・和紙、加茂縞を生産する機械を見て、昔の人の生活がどんなに大変であったか良く分かった。
- ・桐箆筒を作る際の道具をじっくり見せてもらった。
- ・巨大な鋸がインパクト大であった。
- ・木をきれいに切る職人の技が凄い。
- ・漢方薬を作る道具をたくさん見ることができて良かった。
- ・古銭の解説をもっと書いて欲しい。

### 4 博物館実習

・8月16日～8月24日

新潟大学、駒澤大学、長岡造形大学の学生各1名

## 平成26年度の事業予定

#### ○昔の加茂を映像で振り返る会

日時 8月10日(日)

午後2時～午後3時30分

会場 加茂市立図書館(視聴覚室)

内容・昔を偲ぶ加茂の風景(本間正さんの絵画)

・市制施行

・「SELF AND OTHERS」

(加茂出身の写真家 牛腸茂雄の記録映画)

#### ○古文書講座

第1回 9月2日(火) 関 正平 先生

第2回 9月9日(火) 佐藤賢次 先生

第3回 9月16日(火) 溝口敏磨 先生

第4回 9月24日(水) 長谷川昭一先生

第5回 9月30日(火) 丸山朝雄 先生

#### ○歴史講演会

日時 平成26年11月の予定

午後2時～4時

会場 加茂市公民館 第1研修室

講師 未定

#### ○特別歴史講演会

日時、講師ともに未定

# 平成25年遺跡発掘調査について

本年の遺跡調査は、開発事業に関連した確認調査が2遺跡を対象に行われた。

## 1 丸瀉遺跡—古墳—

調査地 加茂市大字加茂字丸瀉地内

調査期間 平成25年4月4日～10日、5月9日、11月6日～9日、平成26年1月17日

調査原因 道路建設工事

調査の概要 確認調査と工事立会い調査を行った。立会い調査では昨年と同じく時期不明の柱根などが出土した。古墳時代～古代のものである可能性が高い。



丸瀉遺跡位置図



丸瀉遺跡 工事立会い調査



丸瀉遺跡 柱根

## 2 中沢遺跡—弥生・古代—

所在地 加茂市下条地内

調査期間 平成25年10月21日・23日

調査原因 排水路改良事業

調査の概要 中沢遺跡からは弥生時代後期～近世までの集落跡が確認されている。今回の調査でも弥生時代後期と平安時代の土器が出土し、広範囲に遺跡が展開することが明らかとなった。



中沢遺跡位置図



中沢遺跡 4トレンチ



中沢遺跡 7トレンチ

## 遺跡探訪

### 丸山遺跡—市内最古の遺跡—

丸山遺跡は、市街地から約7km程加茂川を上り、支流の大谷川がつくりだした段丘上にある。遺跡は馬の背状で舌状に張り出した台地約8,700㎡にひろがる。土地は畑地として利用されていた。

遺跡は平成7年に発見され、その後平成14年と15年に発掘調査が行われた。槍先につけるナイフ形や彫刻刀形石器が多数出土した。石器の組み合わせや火山灰の分析結果などから東北から中部地方にかけて広く認められる杉久保型石器文化に対比され、旧石器時代後期の約20,000年前頃に位置付けられることが判明した。明確な住居跡は発見されていないが、比較的短期間停留する移動生活の中で利用された場所のひとつと考えられる。

加茂市では同時代の資料が出土している遺跡として牛ヶ沢B遺跡・山王原遺跡・岩野原E遺跡があり、いずれも加茂川上流の段丘上に確認される。丸山遺跡は市内最古の遺跡のひとつで発掘調査された貴重な遺跡である。平成18年には二万年前旧石器公園として整備され、憩いの場として利用されている。

(伊藤秀和)



発掘調査



発掘調査



出土石器



二万年前旧石器公園

## 編集後記

昨年の長期天気予報では大雪になるとのことでしたが、それに反し、加茂市周辺は雪が例年より少なく随分と過ごしやすかったです。

巻頭言にもありますように、加茂市民俗資料館も創立40年を迎えます。これからも市民の皆様へ愛される、学習の役に立つ資料館として一層努力してまいります。また、これまで貴重な民俗資料を寄贈してくださいました皆様に改めて感謝申し上げます。

最後になりましたが、今回玉稿をお寄せくださいました溝口敏磨先生に厚く感謝申し上げます。

## 加茂市民俗資料館

- 開館時間 9:00 ~ 17:00
- 休館日 月曜日、毎月第1,3,5土曜日  
祝日、年末年始  
※ 但し、4,5月は月曜日のみ(祝日に当たるときは次の平日)

〒959-1372 新潟県加茂市大字加茂229番地1  
TEL / FAX: 0256-52-0089  
E-mail: minzoku@city.kamo.niigata.jp